



2006年12月12日

都城市長 長峯 誠 殿

社団法人 日本建築家協会九州支部
支部長 井上 福男

都城市民会館保存要望書

冠省、(社)日本建築家協会は建築等の設計、監理を専業とする個人の団体であり、古くは明治黎明期、辰野金吾をはじめとする造家学会の創立ののち、東京建築士会が結成、さらに1987年旧家協(前身、日本建築家協会)と設計管理を専業とする、設計監理協会が世界の建築家活動を共にする為糾合し、当会が設立されました。日本の建築家団体では唯一世界建築家連合(U I A)に加盟(100ヶ国、130万人の会員)し、建築文化、技術、建築教育地球環境保護、サステイナブルなどの建築の向上に研究、研鑽に努めている団体(会員数4,700名)です。

今日、建築のあり様が大きく変換しつつあります。スクラップアンドビルドから恒久的で環境重視の建築です。戦後復興期の住宅、施設建築が量的に充足し、東京オリンピックを境に建築的、文化的、芸術的に価値のある建築を指向し、世界的にみてもオリンピック施設、新幹線、高速道路網と先進国の仲間入りをはたし、今や世界をリードする建築技術を持つまで至りました。

都城市民会館は文化向上の象徴として、又、市民会館の草分けとしてシンボリックな存在です。戦後日本建築界の巨匠菊竹清訓が持論である“メタボリズム”の代表的作品であります。竣工以来40余年都城市民のシンボルとして愛され親しまれている事に対し、都城市民の皆様に敬意を表すと共にこれからの市民の財産、又、日本建築史に残す建築物として都城市民の未来へ贈る素晴らしい遺産として活用される事を熱望いたします。

敬意

敬具